

EBPMアドバイザーボードの活動状況

EBPMアドバイザーボード 主査

星 岳雄

EBPMアドバイザーボードの活動状況（概要）

第1回 EBPMアドバイザーボード(10/27)

議題1 政府のEBPMに関する取組及び今後の進め方について

- ・内閣官房行政改革事務局からの説明
- ・各委員から問題意識について発言

議題2 EBPMに関する具体的な取組事例等

- ・埼玉県説明(学力テストによるデータ整備の事例)
- ・岡山市説明(まちづくりに関するデータ整備の事例)
- ・事務局説明(海外の事例、エビデンス集の作成)

第2回 EBPMアドバイザーボード(11/25)

議題1 GIGAスクール構想についてのEBPM

- ・山口慎太郎教授からの報告(海外のエビデンスを踏まえて)
- ・文部科学省説明

議題2 中小企業生産性革命推進事業等についてのEBPM

- ・若森直樹講師からの報告(海外のエビデンスを踏まえて)
- ・中小企業庁説明

EBPMアドバイザーボードメンバー

赤井 厚雄	株式会社ナウキャスト取締役会長
井伊 雅子	一橋大学国際・公共政策大学院教授
大橋 弘	東京大学大学院経済学研究科教授
小塩 隆士	一橋大学経済研究所教授
西内 啓	株式会社データビークル代表取締役
星 岳雄 (主査)	東京大学大学院経済学研究科教授
柳川 範之 (主査)	東京大学大学院経済学研究科教授
山口 慎太郎	東京大学大学院経済学研究科教授

(敬称略、五十音順)



各WGにも参画

- ・各委員が3つのWGに参画
- ・社会保障WGにおいて、EBPMアドバイザーボード名で「社会保障分野におけるKPI進捗を踏まえた提言」を提出

年明け以降(予定)

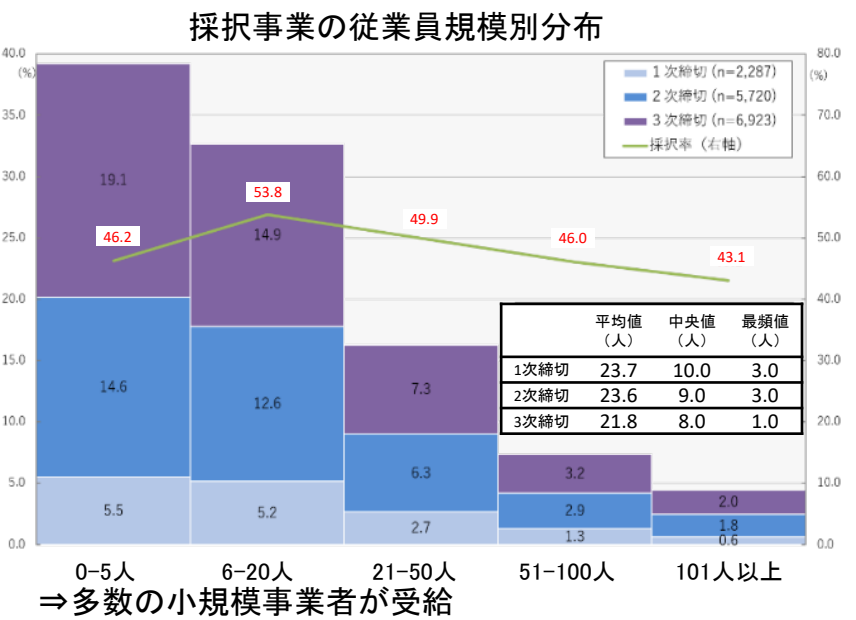
- 中間評価に向けて、適時にアドバイスを行う
- GIGAスクール構想等のEBPMのハンズオン支援
- エビデンス整備計画の提案(後述) 等

中小企業生産性革命推進事業（ものづくり補助金）のEBPM

○経済産業研究所(RIETI)と連携して取り組む好事例だが、エビデンスの質の向上が必要。
 ○他省庁でも同様に、研究所や研究者と連携したEBPMを拡大していくことが必要。

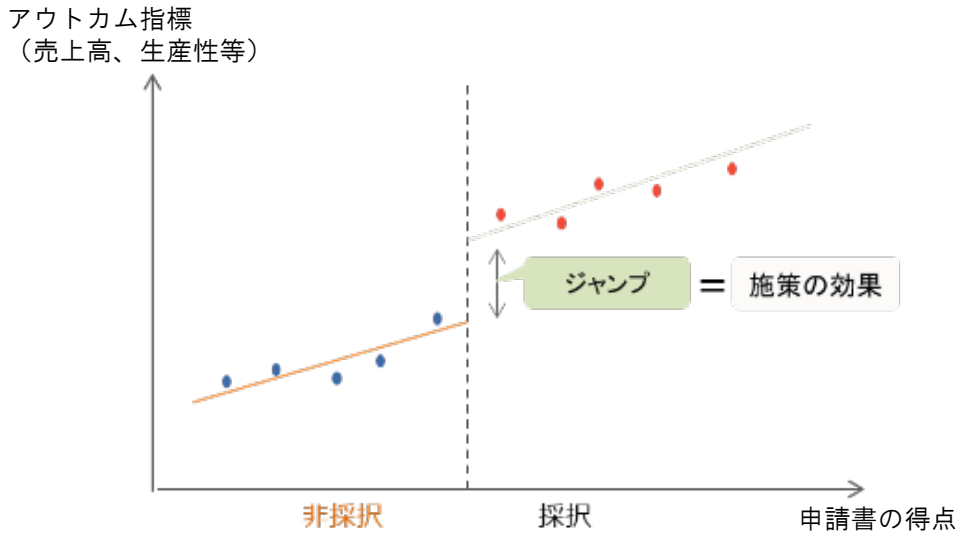
(図表1) データポータル

事業の執行状況をHPで「見える化」



(図表2) 効果検証 (イメージ図)

RIETIにおいて統計的に信頼性の高い手法で分析



⇒事業採択による統計的な有意な差は見つけれず。
 ただし、データ収集や活用方法に課題を残すことから、
 分析枠組を改善し、エビデンスの質を向上させることが必要。

(図表3) 政策効果をもとめるために事業見直し (令和元年度)

補助要件の厳格化	海外事業の強化支援の類型を設定
<ul style="list-style-type: none"> 付加価値額を年率 3%増 給与支給総額を年率1.5%増 を事業計画に明記することを、補助要件として新たに設定	新たに「グローバル展開型」の支援類型を設定 <ul style="list-style-type: none"> 要件を厳格に設定した上で 補助上限額を1000万円⇒3000万円に引き上げ

(出典) 第2回EBPMアドバイザーボードにおける若森氏提出資料及び経済産業省提出資料、関沢洋一等(2020)「ものづくり補助金の効果分析：回帰不連続デザインを用いた分析」RIETIディスカッションペーパーより作成

G I G A スクール構想のEBPM

- 海外の効果検証事例の調査によると、一人一台端末を単に配布するだけでなく、どのように端末を活用するか（アダプティブラーニング等）が、効果を発揮するために重要。
- 研究者等と連携し、端末の活用方法の改善につながるよう効果検証を行うことが必要。

効果検証のイメージ

端末の活用状況(政策変数)に関する情報 ※端末活用の改善のヒントを得るための情報

- ・端末の学内での利用時間
- ・端末の学外での利用時間
- ・家庭のWifi環境
- ・教師の情報システムへの習熟度
- ・端末を活用した学習教材の活用状況 等

データ収集・分析のポイント

- 地方公共団体と連携した調査
 - ・例えばパネル調査による学力調査を実施している自治体(例:埼玉県や福島県)との連携
- 研究者や関係機関との連携
 - ・調査設計段階から分析段階までの連携が重要
- データ収集・分析単位
 - ・個人/学校/地域の各単位のデータの組み合わせ

成果(アウトカム)

- ・学力
- ・PC操作のスキル
- ・学習時間、学習意欲

分析の精緻化に資する情報

※分析単位に応じて、個人・地域の特性を調整するための情報

- | | | |
|-----------|---------------------|------------|
| (個人単位の特性) | (学校単位の特性) | (地域レベルの特性) |
| ・家庭の所得環境 | ・就学支援を受けている児童・生徒の割合 | ・地域の平均所得水準 |
| ・塾への通学状況 | | |

(注) 必要に応じて、入手できる情報を活用する。

どのような生徒・学校で成果がでているかを分析し、改善のためのヒントを得る

EBPM推進のポイント

○EBPMの推進に当たって、文化の醸成や人材育成、行政と研究者の連携が重要である

EBPMに係る文化の醸成や人材育成

- エビデンスに基づいて政策を立案する文化の醸成が重要。
- RCTといった政策的な実験を許容する文化の醸成が重要。
- 海外の省庁では博士号を持ち、統計学の手法をよく知っている人が多い。EBPMに係る人材育成を考えることが必要。
- EBPMに興味を持つインセンティブをつくることできれば、人材育成が成功する可能性が高い。
- エビデンスのある施策に予算が付く、というようなインセンティブがあると良い。

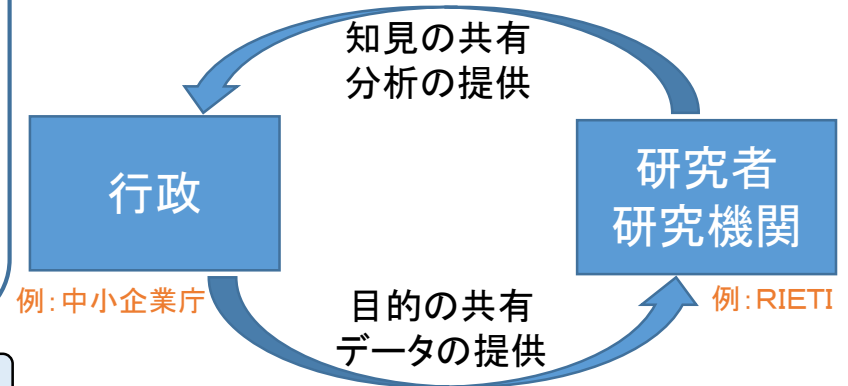
行政と研究者が連携した効果検証の進め方(図1)

- 政策立案段階からEBPMを意識し、データ収集すべき。
- 調査設計段階から研究者が関与すべき。
- 行政側が、研究者から政策立案に有益な知見を引き出すことが重要(純粋な研究目的で終わってはいけない)。
- EBPMの進め方のフォーマットがあるとよい。

エビデンスの客観的な評価の重要性

- エビデンスを中立的な立場から評価すべきであり、自らの省庁の主張のために(歪んで)使うべきでない。
- エビデンスの質の評価は専門家でないとは困難。
- 海外で既存のエビデンスを評価・整理した例がある。(図2)

(図1)行政と研究者の連携(イメージ)



(図2)イギリスの教育分野のツールキット
(エビデンスの評価・整理)

	コストの大きさ	エビデンスの頑健性	効果の大きさ
Within-class attainment grouping クラス内の能力別グルーピング	£ £ £ £ £	🔒 🔒 🔒 🔒 🔒	+3
Teaching assistants ティーチングアシスタント	£ £ £ £ £	🔒 🔒 🔒 🔒 🔒	+1
Summer schools サマースクール	£ £ £ £ £	🔒 🔒 🔒 🔒 🔒	+2

(出典) 第2回EBPMアドバイザーボードにおける山口委員提出資料、第1回EBPMアドバイザーボードにおける内閣府提出資料より作成

(備考) EBPMアドバイザーボードにおける委員発言等をもとに作成

エビデンス整備計画（仮称）

- 改革工程表のロジックモデル（取組→KPI第1階層→KPI第2階層→政策目標）について、どのようなエビデンスの蓄積が求められるかを整理する。
- 重要点について、今後順次エビデンスを構築していく計画をたて、実行する。

例：予防・健康づくりの推進（の一部）

KPI第2階層と政策目標の関係に関するエビデンス

- 適正体重を維持している者の増加は健康寿命の延伸をもたらすか？
- がんの年齢調整死亡率の低下は？健康寿命の延伸をもたらすか？

KPI第1階層とKPI第2階層の関係に関するエビデンス

- がん検診受診率の上昇はがんの年齢調整死亡率の低下につながるか？
- 特定検診・特定保健指導の実施率の上昇は適正体重を維持する人数を増加させるか？

取組とKPI第1階層の関係に関するエビデンス

- スマート・ライフ・プロジェクトは特定検診・特定保健指導の実施率を上昇させるか？